

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：2019 年 4 月 12 日 報告者：原 祐樹

行事種別	研究会	行事番号	190000156
開催日	2019 年 4 月 6 日 (土)		
時 間	開 始	15 時 30 分	終 了 18 時 00 分
場 所	アーバンネット名古屋ビル 20F リップルスクエア (所在地 名古屋市)		
テーマ	基礎から学び直すグラム染色 -臨床貢献につなげるために-		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	JA 愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠 技師		
講 師	講 演 1：グラム染色の基本 -原理と材料別処理について- JA 愛知厚生連海南病院 伊藤 楓 技師 講 演 2：グラム染色の実際 -鏡検のポイントとピットフォール- JA 愛知厚生連豊田厚生病院 永田 悠起 技師 講 演 3：グラム染色の精度管理 -ISO15189 取得施設からの報告- 愛知医科大学病院 宮崎 成美 技師 講 演 4：グラム染色ケースカンファレンス -臨床貢献するためにはどうするか？- 小牧市民病院 西尾 美津留 技師		
内 容	講演 1 では、グラム染色の原理や材料別の検体処理法について、基礎的な内容について講演を行った。 講演 2 では、グラム染色を正しく鏡検するためのポイントとピットフォールについて、多くの写真を交えながら詳しく解説して頂いた。 講演 3 では、ISO15189 を取得している施設から、グラム染色の精度管理について自施設の実施方法をご紹介頂いた。この講演では、参加者より特に多くの質問があり、昨年 12 月に施行された法改正をうけ、各施設まだまだ手探り状態で精度管理を行っている現状が浮き彫りとなった。 講演 4 では、10 症例のグラム染色結果について、ケースカンファレンス方式で講演を行った。臨床貢献するために我々はどうするべきなのか、症例を通して多くの知識が共有できた。 全ての講演において、活発な討議が行われた。		
参加者	総数：116 名(会員 110 名、県外会員 1 名、非会員 0 名、賛助会員 1 名、学生 0 名、その他 0 名、申請中 4 名)		
共催、後援など	なし		

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和元年 7 月 9 日 報告者：原 祐樹

行事種別	研究会	行事番号	190004600
開催日	令和元年 7 月 6 日（土）		
時 間	開 始	15 時 30 分	終 了 18 時 00 分
場 所	名鉄病院 2 号館 2 階 第 1・第 2 会議室（所在地 名古屋市）		
テーマ	基礎から学び直す培養検査 -適切な培地選択と釣菌基準-		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	小牧市民病院 西尾 美津留 技師		
講 師	講演 1：起炎菌を拾う意義を再考する 刈谷豊田総合病院 蔵前 仁 技師 講演 2：材料別の培養・釣菌 -泌尿生殖器- 豊橋市民病院 山本 優 技師 講演 3：材料別の培養・釣菌 -皮膚・膿- JA 愛知厚生連海南病院 伊藤 楓 技師 講演 4：材料別の培養・釣菌 -呼吸器- JA 愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠 技師		
内 容	4 月に開催された研究会ではグラム染色を取り上げたが、今回はそれに引き続き培養・釣菌という微生物検査の基礎を学び直すことをテーマに据えた。 講演 1 では、培養・釣菌により起炎菌を正確に拾うことの大切さを初歩から解説して頂いた。我々が返すデータが、治療に直結していることが改めて認識された。 講演 2 から 4 では、多岐に渡る微生物検査材料の中でも、特に常在菌の混入が前提であり、釣菌の難易度が高い材料（泌尿生殖器、皮膚・膿、呼吸器）について、詳細に解説して頂いた。釣菌においては、画一的な釣菌基準のみで適切な釣菌を行うことは困難であり、電子カルテの確認、他の検査データならびに多職種とのコミュニケーションによる総合的な判断が臨床貢献に必須であることが示された。 全ての講演において、参加者から多数の質問があり、活発な討議が行われた。		
参加者	総数：99 名（会員 96 名、賛助会員 3 名）		
共催、後援など			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和元年 8 月 11 日 報告者：原 祐樹

行事種別	講習会・研修会		行事番号	190005623	
開催日	令和元年 8 月 4 日（日）				
時 間	開 始	9 時 00 分	終 了	16 時 00 分	
場 所	愛知県 愛知医科大学				
テーマ	呼吸器！微生物検査の基礎を再確認しよう！ -その方法、本当に正しい ですか？-				
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点				
司 会	講義：及川 加奈 技師 実習：永田 悠起 技師				
講 師	1.微生物検査の意義 名古屋第二赤十字病院 原 祐樹 技師 2.正しい培養結果へのファーストステップ！検体処理の基本 JA 愛知厚生連足助病院 古井 清 技師 3.これだけはおさえよう！市中肺炎の主な原因菌 名鉄病院 池戸 政博 技師 4.特別扱いしてほしい！肺炎のその他の原因菌 公立陶生病院 位田 陽史 技師 5.基礎講座のまとめ JA 愛知厚生連豊田厚生病院 永田 悠起 技師				
内 容	今回の基礎講座では呼吸器検体の中でも市中肺炎の原因菌を確実に検出する事をテーマに据えた。講義 1 では微生物検査の知識・技術、それによって得られる検査データの重要性を講義頂いた。我講義 2 では呼吸器材料の採取から検体処理（グラム染色含む）までの工程について解説頂いた。講義 3 では市中肺炎の主な原因菌である、 <i>S. pneumoniae</i> , <i>M. catarrhalis</i> , <i>H. influenzae</i> の同定方法について講演して頂いた。同定法の基礎から応用まで解説頂き、日々の業務に活かせる内容であった。講義 4 では特殊な培養を必要とする細菌について講義頂いた。特殊な培養法、クロマト法や遺伝子検査等の知識を得る事ができた。実習では午前の講義内容を実際に行え、知識を深める事ができた。講義 5 では一日で習った事をまとめて頂き、理解が深まった。				
参加者	総数：52 名（会員 52 名）				
共催、後援など					

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和元年 9 月 10 日 報告者：原 祐樹

行事種別	研究会	行事番号	190013149
開催日	令和元年 9 月 7 日 (土)		
時 間	開 始	15 時 30 分	終 了 18 時 00 分
場 所	名古屋大学医学部 基礎研究棟 第 1 講義室 (所在地 名古屋市)		
テーマ	学び直す薬剤感受性・薬剤耐性菌検査 -正しい結果を得る、得た結果を活かす-		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	刈谷豊田総合病院 蔵前 仁 技師		
講 師	講演 1：薬剤感受性試験 -測定条件- 刈谷豊田総合病院 染谷 友紀 技師 講演 2：薬剤感受性試験 -再検・追加検査- JA 愛知厚生連江南厚生病院 及川 加奈 技師 講演 3：薬剤感受性データ -統計・アンチバイオグラム作成- 名古屋大学医学部附属病院 長田 ゆかり 技師 講演 4：ケース・カンファランス -本当に大事なものは技師の感受性- 愛知医科大学病院 坂梨 大輔 技師		
内 容	4 月、7 月に開催された研究会では染色、釣菌を取り上げたが、今回は薬剤感受性試験・耐性菌検査の基礎を学び直すことをテーマとした。講演 1 では、測定条件を遵守することの大切さを初歩から解説して頂いた。検査法（機器）ごとに最適な方法が異なるため、添付文書等を熟読することの重要性が説かれた。 講演 2 では、薬剤感受性試験における再検査の意義を説明いただいた。測定エラー疑い、耐性菌を決定づけたい等、目的を理解して再検することが重要とのことであった。 講演 3 では、アンチバイオグラムの作成方法と実用例についてレクチャーいただいた。抗菌薬適正使用支援加算が新設され、アンチバイオグラム作成も臨床微生物検査技師の業務の 1 つとなった。今後各施設で作成する際に参考となる有益な講演であった。 講演 4 は講演 1～3 を踏まえたうえで、日常業務で起こりうる問題とその要因、予防策について講話いただいた。薬剤感受性試験は自動化が進んだ領域であるが、正しい結果を得るために留意すべき気を付けるべきことは多い。本研究会は、手適切な検査法について知識を共有し、標準作業の見直しや臨床貢献について再考する有意義な場となった。		
参加者	総数：94 名（会員 93 名、賛助会員 1 名）		
共催、後援など	なし		

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和元年 11 月 10 日 報告者：原 祐樹

行事種別	講演会	行事番号	190019628
開催日	令和元年 11 月 9 日 (土)		
時 間	開 始	15 時 30 分	終 了 17 時 30 分
場 所	名古屋大学医学部 基礎研究棟 第 1 講義室 (所在地 名古屋市)		
テーマ	微生物検査技師に知っておいてもらいたい感染症診療の基礎知識		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	名古屋第二赤十字病院 原 祐樹 技師		
講 師	講演：微生物検査技師に知っておいてもらいたい感染症診療の基礎知識 藤田医科大学病院 鈴木 大介 医師		
内 容	感染症診療において微生物検査は非常に重要な検査であるが、微生物検査を行う私たちが感染症診療について学ぶ機会は少ない。そこで日常の微生物検査の質をさらに高めるために微生物検査技師が知っておくべき感染症診療の基礎知識を感染症専門医から講演していただいた。 講演は、抗菌薬の分類と効果のある細菌といった非常に基礎的な話題から始まり、臨床医や感染症専門医がどのように診療をすすめているかについてお話をいただいた。 また、微生物検査室から培養結果が届いた後、その結果をどのように臨床に反映させているかについて実際の症例をもとに解説していただいた。標的菌にターゲットを絞った標的治療を行うためには培養結果が重要であり、微生物検査が果たす役割が大きいことを改めて認識することが出来た。さらに、多くの臨床医は感染症診療や微生物に詳しくないため、検査室から情報提供を行うことで臨床医のスキルアップをおこなったり、医師の回診などに臨床検査技師も同行して医師や患者の話を聞いて、そこで得た情報を実際の検査に反映させるといったことをぜひとも行っていただきたいとのご提案もいただいた。会場からも質問が多くあり、終了後も医師のもとへ質問者訪れるなど非常に盛況な会となった。		
参加者	総数：76 名 (会員 76 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名)		
共催、後援など	なし		